

佐藤大使による開会挨拶

（冒頭）

本日は、ブラジリア、連邦検察庁において、「司法協力セミナー・汚職との戦い」を開催することが出来、非常に嬉しく思います。本セミナー開催に向けて、ジャノー検事総長のリーダーシップ及び連邦検察庁を始めとした伯司法関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。また、本セミナーご出席のため、遠路ブラジルにお越し頂きました千田UNAFEI所長をはじめとする日本本国からのご出席者の皆様にも深く御礼申し上げます。

（連邦検察庁への賛辞）

現在ブラジルでは、連邦検察庁の指揮の下、大規模汚職捜査「ラヴァ・ジャット作戦」が進展しています。これまでの捜査の過程では、数多くの政治家・企業家等が逮捕されており、この未曾有の汚職事件により、ブラジル全体が大きく揺れ動き、また、世界がブラジルの行く末を注目しています。そうした中、伯連邦検察庁は、確固たる意思で司法の独立性を守りつつ、果敢に捜査を進めています。連邦検察庁による汚職撲滅の闘いが、ブラジル国民の意識を変革し、汚職のない、より公正で透明性の高い社会の実現につながることを期待します。

（セミナー趣旨）

本セミナーは、第1に、日伯両国の司法関係者が汚職に対する取組・防止策等を共有することで、互いの汚職対策に関する現状及び課題を理解し、また、今後の刑事司法分野における両国の更なる協力を促すことを目的としています。第二に、我が国法務省が管理・運営するUNAFEI（国連アジア極東犯罪防止研修所）において、研修に参加したブラジル人検察官が、その研修で得た知見を検察庁の同僚検事や司法関係者に共有することを目的としています。

（結び）

今日、組織犯罪や汚職、テロの問題は、ますます複雑化・グローバル化する傾向にあります。これらに対峙するため、各国は国連条約等に基づき、刑事司法分野における国際協力を急速に強化しています。こうした国際協力に加えて、二国間の協力を重層的に行っていくことも極めて重要です。今次セミナーの開催を通じて、日伯両国の刑事司法分野の協力が更に進展するとともに、両国の戦略的グローバル・パートナーシップの強化に資することを期待して、私の挨拶を終わります。